



ROTARY
WEEKLY
NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：井上 修 副会長：鈴木一比古 幹事：加藤 篤 公共イメージ向上委員長：瀧谷恵二

UNITE
FOR
GOOD
よいことのために
手をとりあおう

2025-2026年度 RI会長メッセージ
よいことのために手をとりあおう

2025-2026 RI会長
フランチェスコ・
アレツォ
〈イタリア〉



第1748回 アオギリ例会 令和7年8月5日(火)

『アオギリ例会』

12：00より高尾公園「広島被爆アオギリ二世」前にて

・黙祷

・井上修会長あいさつ

本日は酷暑の中、このアオギリ特別例会にご出席頂きお礼申し上げます。又、マスコミ各社の方々も取材にお越し頂き厚くお礼申し上げます。ご承知のように昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞致し、今年は原爆投下80年を迎えます。明日の式典には120ヶ国・地域の最大の参列者が見込まれるようで、被団協の田中氏の講演も予定されているようです。核兵器の脅威が現実味を帯びる中、改めて「アオギリ特別例会」の意義を見直してみたいと思います。

このアオギリは「被爆アオギリ2世」と言われています。過去の経緯を申し上げますと・・・

爆心地から 1.3 kmのところ植えられていた3本のアオギリは、原爆を受けて、爆心地側の幹が半分焼けてしまいました。当時、広島には 75 年間草木は生えないと言われていましたが、その翌年の春には、幹が半分無くなったアオギリは樹皮が傷口を包むようにして3本とも新芽を出したそうです。原爆に負けず、たくましく生きるアオギリは原爆の後遺症で苦しむ人々に大きな力と生きる希望を与えました。その後、このアオギリの木2本（1本は枯渇）は、広島平和公園内に移植され、生命力と再生の象徴として、また、戦争の悲惨さと平和の重要性を思い起こさせるシンボルとして、毎年8月6日には「原爆の日」として、多くの人々がこの木に集い、平和を願う行事が開催されています。1990年頃から、この2本のアオギリの種から苗木を育て「被爆アオギリ2世」として、全国の学校や自治体に「平和の使者」として贈るキャンペーンが実施されています。

このアオギリは今から 12年前「2013 ロータリー世界平和フォーラム」開催の記念事業として、ホスト委員会である広島から苗木をいただき、この地に植樹したものです。植樹した当時のクラブ会長であった矢野昌史さん（数年前に退会）が退会後も長年に渡り手入れをして頂いております。当時の



苗木の贈呈をしていただく条件として、植える場所や管理する人など細部にわたり報告をする必要があり、当時の矢野会長の目の届く高尾公園にアオギリを植えることにしたそうです。伊那小学校が眼下に広がり、子供達の成長を見守る場所であることも大きな決め手になったとか。植樹した当時は30センチメートル程度の大きさだったそうです。譲り受けた苗木も12年が経って、大きく育ちました。苗木に添えられた松井一實広島市長のメッセージには「平和を愛する心、命あるものを大切に
する心を後世に継承するため、この被爆アオギリが実らせた種を発芽させて育て、成長した苗木を「被爆アオギリ二世と名付けて配布しています。皆さんの手で大きく育て、平和の尊さを伝えていって下さい。」とあります。この木が伊那の地において、世代を超えて平和の尊さを伝える象徴として生き続けるようしっかりと今後も矢野さんと心合わせ管理して参ります。



8月6日長野日報にて掲載

『通常例会』

12:30より「例会場」にて

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 伊藤かおりソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・上伊那農業協同組合 代表理事組合長 西村 篤 様
- ・伊那 RC 八木 真 様
- ・伊那 RC 唐木 拓 様
- ・伊那 RC 山崎 秀亮 様
- ・伊那 RC 唐澤 洋祐 様



■ 会長談話 井上修会長



原子爆弾投下は、アメリカがどんな言い訳（早期の戦争終結等）をしようと、人類史上最大の戦争犯罪です。広島は当時 35 万都市で 14 万人が犠牲になり長崎は 24 万人都市で 7 万人が亡くなりました。戦闘能力のない無辜の民の虐殺した歴史は他に類を見ません。原爆はナチス・ドイツの原爆開発を恐れたアインシュタイン博士らが、アメリカのルーズベルト大統領に研究を進言し開発されたもので、ドイツが降伏し使う先がなくなったのです。それでも日本に落としました。ロシアとの軍事力の差を誇示する為ともいわれています。原子爆弾のリーダー・ロバート・オッペンハイマーはカルフォルニアでの実験の後、その威力に驚愕し使用をしないよう進言したとも言われています。投下の命令を下したのは大統領トルーマン大統領です。

我——アメリカはその3月にも東京大空襲をやっています。日本の家屋の徹底調査で効果的に延焼する焼夷弾を作り、逃げられないように円周に落として徐々に中に爆弾を落としています。やりたい放題だったんですね。アメリカという国は元々、欧州から反発して出て行った人物達の国であり、ヨーロッパが 2000 年かけて無くした奴隷を復活させ、騎士道も否定し、即ち騎士道の敵も敬うという事を無くし、皆殺しを平気

でやる国です。

東京大空襲の時には完全に制空権を握っており、2000mという低い位置から爆撃を投下出来ました。彼らはピンポイントで東京の4か所は避けました。①東大図書館②立教大学③聖路加病院・いずれもロックフェラー財団の寄付で作ったものでそれを知っていました。④友軍の神田のロシア・ニコライ聖堂。加えて、服部時計店本社、第一生命本社、この二つは占領後本部に使おうと考えたようです。やりたい放題だったのですね。因みに戦争犯罪が問われた東京裁判で唯一日本の無罪を主張したのがインドのパール判事です。箱根に判事の記念館があり、手入れされずに放置されていたのを我々のグループで掃除を致しました。インドの国会は原爆投下の日に黙祷をささげ続けてくれています。

以上のような不幸な経験を元に、我々は唯一の被爆国として核兵器の廃絶を訴え続ける使命を負っています。加えて、我々の上部団体である国際RCがアメリカにあり、同国との過去の歴史を正しく認識し活動に役立てていく使命を負っています。

■ 慶 祝

8月誕生祝い

・伊藤かおり会員



■ ニコニコボックス

◆井上修

西村組合長、本日の卓話宜しくお願い致します。楽しみにしています。

◆井上修

伊那RCの八木沢真様・唐木拓様・山崎秀亮様・唐澤洋祐様、（申し込み順）ようこそお越し下さいました。我々も貴クラブの例会へのメイキャップを考えなくてはいけません。親睦活動副委員長・池田幸平さん、指名しますので行って下さい。又今日は親クラブの方々の来訪です。何時もより品よくお願いします。

■ 幹事報告 加藤篤幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 卓 話

・卓話者紹介 井上修会長

・上伊那農業協同組合 代表理事組合長 西村篤 様



1. はじめに：米を巡る議論

米は、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなど多様なメディアで日常的に報道される「話題の米」です。生産調整政策の是非や輸出入に関する議論が多く交わされていますが、資料では、専門家や農業の専門家ではない無責任な議論が横行するマスコミに警鐘を鳴らしています。

2. コメ不足の現状と要因

資料によると、コメ不足の状況には複数の要因が挙げられます。

- 令和5年産米の収穫量が、実績よりも少なかった。
- 令和6年産米の収穫量は、長雨やカメムシなどの影響で落ち込み、白米やカメムシなどでの歩留まり（収穫量に対する実際に利用できる量の割合）も低下した。
- 需要面では、4月から7月にかけて需要が食い込んだ。
- 8月には物価高騰により大幅な需要増が見られた。
- 東海トラフに備える家庭での備蓄も一因として挙げられている。

3. コメ流通の変化と市場動向

コメの流通経路は多角化しており、これは市場動向に大きな影響を与えています。

- 生産量700万トンのうち、“約6%（42万トン）”がこれまでの流通経路から外れている。
- インターネット販売や生産者直送が大幅に増加している。
- 多様な業者による集荷・直接販売が進んでいる。
- 家庭の米消費量は6%増加し、インバウンド消費も1%増加しており、合計で“約7%（49万トン）”のコメ消費が増加している。

米の価格に関して、JAの取り分が拡大し価格が高騰しているかという問いに対し、資料では以下の価格が示されています。

- JAグループなどの集荷業者の買い取り価格は、米価格の9～10%に相当する26,00円である。
- 卸売業者の価格は3,900円。
- 小売業者の価格もさらに上乗せで+3,900円と示されている。

4. 農業の労働と経営

労働賃金

- 水田における時間当たりの賃金は187円とされている。
- 農業全体での時間当たりの賃金は4,961円、他産業全体では1,669円と記載されている。
生産者のモチベーション 生産者が喜びを持って農業を営んでいける要因の一つとして、以下の点が挙げられている。
- 農産物価格（これはやはり重要であると手書きメモで強調されている）。
- 農業の多面的機能。
- 故郷の景観維持。
- 未来に届けるという“使命感”。

5. 消費者の視点と食料安全保障

安心・安全な農産物 消費者は安心安全な農産物を求めています。

- 中国産の農産入り餃子（平成20年）の事例が挙げられている。
- 「地域でとれたものは地域で消費」という考えがあり、国内産の農産物は多少高くても安心安全なものを提供するとされている。
- 地域で生産された農産物を摂取することで、その地域の病気や風土病に対する免疫作用があると信じられているが、証明されているわけではないとも記されている。

食料安全保障の課題 食料、特に主食であるコメの需給を市場原理に委ねることの是非について、議論が提起されています。

- 財務省や農林水産省の一部は、コメが不足すれば海外から輸入すれば良いと考えているようだが、これは食料安全保障に反するという見方が示されている。
- もし輸出が可能であれば良いとされる。
- これは「おかしな話」であり、長年にわたって日本の食料安全保障をどう考えるか、真剣に議論すべき時であると提言されている。



補足事項

資料には、米や農業の主要なテーマ以外にも以下の項目が言及されていますが、詳細な説明は含まれていません。

- 鶏卵の価格（現在 1 パック 300 円、従来は先着 50 名に無料提供などしていた）。
- 韓国の若者と徴兵制（徴兵制ではなく「徴農制」はどうかの問いかけ）。

・質疑応答

・謝辞 井上修会長

■ 出席報告 会員数39名 出席免除会員4名 長欠会員1名 本日出席者(例会場)23名 (ZOOM)1名
事前メイク1名 出席率74.36% 前回出席率 修正なし

■ 点 鐘 13:30

次回例会
8月19日(火)
・クラブフォーラム「米山記念奨学委員会」
卓話：米山奨学生